

崎谷直人



アーティスト・レクチャー・シリーズ ～バッハ、ベートーヴェン、ブラームス “三大B”で巡る録音の芸術～

ヴァイオリニスト崎谷直人が
スペシャリストを招いて
録音芸術の魅力を語る&奏でる！

会場：

宮地楽器小金井店
さくらホール
(東京都小金井市本町5-14-10)

テンポ設定やフレージングの違いで奏法はどう変わるのか、レコーディングと演奏会で奏法は変わるのか、演奏の違いは時代背景と関係するのか、エンジニアはいかにアーティストの理想の音に近づけるのか…崎谷直人がこだわり続ける「録音」について、演奏家、学者、エンジニア、それぞれの視点から掘り下げて語りつくす濃密なレクチャー・シリーズ全3回。アーティストの熱意と秘密に迫る、ここでしか聞くことのできない特別企画！

第1回

Brahms

2025. 1/17 [金]
19:00開演(18:30開場)

ブラームス/
奏法の違いに注目!名盤の魅力に迫る

ゲスト:西原 稔
ピアノ伴奏:三原未紗子



※各回90分(予定)

第2回

Beethoven

2025. 2/2 [日]
14:00開演(13:30開場)

ベートーヴェン/
歴史的録音の深みをコンサートマスター
の視点を交えて語る

ゲスト:西原 稔
ピアノ伴奏:松田 龍



第3回

Bach

2025. 3/1 [土]
14:00開演(13:30開場)

バッハ/
レコード創作にけるアーティストの情熱
～録音・ミキシング実演～

ゲスト:株式会社フォンテック
制作技術 松田 朗、佐藤典雄



チケット好評発売中!



料金:【全3回】各回 3,500円(税込)

◇ <https://maandengagement.wixsite.com/website/about-1>

◇ 宮地楽器小金井店(店頭販売のみ)

崎谷直人 アーティスト・レクチャー・シリーズ

～バッハ、ベートーヴェン、ブラームス“三大B”で巡る録音の芸術～

崎谷直人 Sakiya Naoto

1998年ノボシビルスク国際コンクールジュニア部門第1位、メニューイン国際コンクールジュニア部門第3位を獲得し、ケルン音楽大学に最年少15歳で入学。その後パリ市立音楽院、桐朋学園ソリスト・ディプロマコースを経て、バーゼル音楽院修了。

2006年にウェールズ弦楽四重奏団を結成。第1ヴァイオリン奏者として、ミュンヘン国際コンクール弦楽四重奏部門、大阪国際室内楽コンクール弦楽四重奏部門にて各3位を獲得。メナヘム・プレスラー、アレクサンダー・ロマノフスキー、ポール・メイエ、ミッシェル・マイスキー各氏ほか、多くのトップアーティストらと室内楽を共演。また、王子ホール、hakujuホール、紀尾井ホール、第一生命ホール、iichiko総合文化センター等、国内有数のホールに招かれる。

2014年より8年間、神奈川フィルハーモニー管弦楽団ソロ・コンサートマスターを務めた。これまでに、東京フィル、京都市交響楽団、神奈川フィルハーモニー管弦楽団、名古屋フィルハーモニー交響楽団、バーゼル交響楽団、ノボシビルスク・フィル等とソリストとして共演。日本センチュリー交響楽団、読売日本交響楽団、NHK交響楽団など、全国のオーケストラに客演コンマスとして出演。

ヴァイオリンを、原田幸一郎、ザハール・ブロン、ジェラルド・ブーレ、ロラン・ドガレイユ、ダニエル・ゼベック各氏に、弦楽四重奏をライナー・シュミット氏(ハーゲン四重奏団)に師事。

現在は、ウェールズ弦楽四重奏団、石田泰尚とのヴァイオリンユニット“DOS DEL FIDDLES”等で幅広く活動し、全国のオーケストラに客演コンサートマスターとして多数出演している。



これまでに、ウェールズ弦楽四重奏団として、進行中のベートーヴェン弦楽四重奏曲全集を含む6枚のアルバム(fontec)と、DOS DEL FIDDLESとして、『DOS DELL FIDDLES-LIVE-』(日本コロムビア)をリリース。2022年10月にバッハ無伴奏曲を中心としたアルバム『destined for...BACH』(fontec)をリリースし、レコード芸術新譜月評にて特選盤に選出された。

使用楽器は、1697年製G.B.Rogeri。

西原 稔 Minoru Nishihara

山形市出身。桐朋学園大学名誉教授。シューマンおよびブラームスを中心とくに近代ドイツ音楽をさまざまな見地から研究。「音楽家の社会史」、「聖なるイメージの音楽」「音楽史ほんとうの話」、「ブラームス」、「シューマン 全ピアノ作品の研究 上・下」(以上、音楽之友社、ミュージック・ペン・クラブ賞受賞)、「ドイツ・レクイエムへの道、ブラームスと神の声・人の声」、「神と向かい合った作曲家たち—ミサ曲とレクイエムの近代史① 745-1945」(音楽之友社)、「ブラームスの協奏曲とドイツ・ロマン派の音楽」(芸術現代社)、「ピアノの誕生」(講談社)、「楽聖ベートーヴェンの誕生」(平凡社)、「クラシック 名曲を生んだ恋物語」(講談社)、「クラシックでわかる世界史」、「ピアノ大陸ヨーロッパ」(以上、アルテスパブリッシング)、「世界史でたどる名作オペラ」(東京堂)などの著書のほかに、翻訳者等。



松田 朗 Akira Matsuda

小樽市出身。株式会社フォンテック 取締役レーベル事業部マネージャー。1982年の入社以来、一貫して日本の作曲家・演奏家のLP、CDを制作する。現代日本の主要な作曲家と交流し、間宮芳生、武満 徹、一柳 慧、石井真木、高橋悠治、細川俊夫、三輪真弘 等のCDをシリーズ化してきた。1992年に開始し、58タイトルを数える《現代日本の作曲家》は、日本の創作を辿る一大絵巻の様相を呈している。

数多くのタイトルを制作したアーティストとして、指揮者は朝比奈 隆、飯守泰次郎、小泉和裕、尾高忠明、器楽奏者は潮田益子、徳永二男、藤井一興、伊藤 恵、鈴木大介、岡崎慶輔、北村朋幹ほか、声楽では藤村実穂子の名が挙げられる。

エンジニア佐藤典雄とともに、崎谷直人を第1ヴァイオリンに擁するウェールズ弦楽四重奏団の演奏を8タイトル、ソロ作品2枚を収録。制作を担った5作品が、文化庁芸術祭賞大賞・優秀賞を受賞している。

